



坂本龍馬は、1866年(慶応2年)、寺田屋事件で受けた刀傷を癒すため妻お龍とともに薩摩を訪れ、塩浸温泉で湯治をしながら、霧島を満喫し、人生最高の日々を過ごしました。この旅が「日本最初の新婚旅行」と言われております。

旧暦	新暦	事項
1月21日	3月7日	薩長同盟成立。会談は龍馬到着が遅く、龍馬不在のまま京都薩摩藩邸で開かれた。
1月23日	3月9日	24日未明午前2時頃、京都伏見寺田屋で三吉慎蔵と共に幕士に襲われ手傷を負うもののピストルで応戦して危機を脱す。大山彦八に救出され薩摩藩邸に囲われる。西郷は兵一個小隊と医師を派遣。
2月5日	3月21日	薩長連合の確認を求める桂の書簡に裏書きす。
2月12日	3月28日	中岡慎太郎入京。龍馬32歳、この頃中岡の仲人でお龍との結婚を正式に披露。この頃西郷・小松に霧島に傷によく効くという評判の塩浸温泉湯治を勧められる。
2月29日	4月14日	龍馬はお龍を連れ、鹿児島に向けて京都を出立。
3月1日	4月15日	大阪間の薩摩蔵屋敷に着く。船支度を待つ。
3月4日	4月18日	薩船「三邦丸」に乗船。小松、西郷、桂久武、吉井友実等と鹿児島に向かう。中岡慎太郎、三吉慎三も同道。縁結びのこの旅が日本人の新婚旅行第1号となる。二大雄藩の薩長連合が成り、お龍を得この先は薩摩を目指して遊覧の旅。時まさに、爛漫の春である。
3月6日	4月20日	下関で中岡・三吉下船。下関に泊まる。
3月9日	4月23日	長崎に寄る。
3月10日	4月24日	鹿児島着。西郷、小松、吉井邸に泊まる。
3月16日	4月30日	吉井友実が誘い、龍馬夫妻塩浸温泉へ。小松帯刀夫妻は3月14日より4月8日まで、25日間霧島栄之尾温泉へ湯治に出発。穏やかな錦江湾に雄大に浮かぶ桜島を眺めながら船で浜之市港へ。日当山温泉へ泊まる。
3月17日	5月1日	この日より塩浸温泉で11泊し手傷の治療をすこの間、月日は特定できないが、和氣清麻呂公史蹟に立ち寄り。史蹟といっても齊彬公お手植の松があっただけしか犬飼滝と深谷を見下ろし、右手に桜島、左手に高千穂峰を望めるこの場所は絶景であった。薩見滝(犬飼滝)や塩浸温泉は「この世の外かと思われ候ほどめづらしき所なり。谷川の流れてに魚を釣り、短筒で鳥を撃つ。誠におもしろかり。」(姉乙女に宛てた手紙より)と記されている。塩浸の谷は、岩つつじが満開の頃であり、近くの安楽や妙見の温泉、和氣湯など温泉巡りもしただろう、二人は遠い京のごとど忘れ、一生で一番楽しい幸せな日々であったろう。
3月28日	5月12日	龍馬夫妻、吉井友実の案内で、栄之尾温泉の小松帯刀の見舞いに行く。牧歌的な葦葎の家が続く中津川路。行く春の風を体いっぱい受けながら、真正面に見える霧島連山に向かって歩いた。足もとはは葉の花やれんげ・桜の花が咲き、鳥が鳴き、水ぬるむ春の真つ盛りの中津川街道。和氣公やこの地を13年前に訪れ没後8年たった島津齊彬公の実績を偲びつつ、ただのんびりと岳の温泉をめざした。硫黄谷温泉泊。
3月29日	5月13日	龍馬夫婦念願の高千穂登山。途中高千穂峰を矢立でスケッチする。馬の背越えではあぶなくお龍の手を引く。天の逆鋒に笑い、おびたしい霧島ツツジに感動。霧島神宮を参拝し御神木の樹齢千年近い大杉を見る。華林寺泊。
3月30日	5月14日	再び硫黄谷温泉泊。吉井友実が待っており、同行して4月1日塩浸温泉へ帰り7泊する。
4月8日	5月22日	日当山温泉に帰り3泊する。
4月11日	5月25日	浜之市に帰り船待ちで1泊するも、宿は不明。
4月12日	5月26日	浜之市より乗船。鹿児島へ帰る。小松帯刀原良別邸へ約50日間滞在するも毎日どこで何をしていたかは、記録がないため不明。
4月14日	5月28日	開成所に行く。5月1日桜島丸来る。
5月19日	6月15日	寺内氏より四両三歩の金を借用し、短刀合口をこしらえる。
6月4日	7月15日	龍馬夫妻は桜島丸にて天保山より出港、帰途につく。



5月1日に塩浸温泉龍馬公園として、新たな入浴施設と公園、坂本龍馬や観光に関連した資料を展示する施設を整備し、再開に至りました。

2010年(平成22年)  
5月1日に塩浸温泉龍馬公園として、新たな入浴施設と公園、坂本龍馬や観光に関連した資料を展示する施設を整備し、再開に至りました。

1806年(文化3年) 発見。温泉で鶴が傷を癒していたことから鶴の湯と呼ばれ、切り傷や胃腸病に効能があると言いつづえられました。

1866年(慶応2年3月) 坂本龍馬・お龍夫妻が訪れ、18泊程湯治と観光をして過ごしました。

1867年(慶応3年) 福山郷に住む岡本助八が浴場を設け、戊辰戦争の負傷兵に効能があったとして「躍有名」となりました。

付近の川岸等に塩牡蠣(白色の固形物)が付いていたことから塩浸温泉と呼ばれるようになり、

1985年(明治18年) 暴風雨の被害があったものの再興。

1969年(昭和44年) 牧園町塩浸温泉センターが開業。

1989年(平成元年) 11月23日「坂本龍馬・お龍新婚湯治碑」を建立。

1990年(平成2年) 牧園町、牧園町社会福祉協議会により「塩浸温泉 福祉の里」として開館。

2009年(平成21年) 建物が老朽化してきたことから2009年3月末限りで入浴施設は一旦閉鎖。

2010年(平成22年) 5月1日に塩浸温泉龍馬公園として、新たな入浴施設と公園、坂本龍馬や観光に関連した資料を展示する施設を整備し、再開に至りました。



1989年(平成元年)に建てられたもので、「近代日本の礎を築いた龍馬ゆかりの地に、町内外の浄財を仰ぎ、この像を建て後世に伝えるものです。2010年5月に塩浸温泉龍馬公園としてリニューアルしました。

塩浸温泉公園を流れる石坂川沿いにある湯船は、塩浸温泉に残る、江戸時代から最古の湯船です。他にも多くの湯船がありました。龍馬とお龍もここに浸かったことでしょう。

### 塩浸温泉 最古の湯船

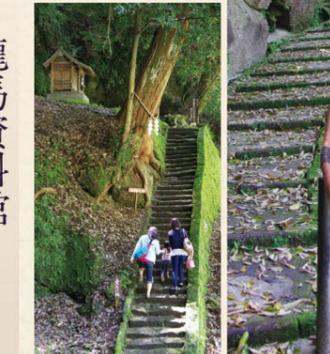
### 坂本龍馬・お龍 新婚湯治碑



「パワースポット」水の神・風の神・温泉の神、三人の神様が祀られています。当時、温泉は医者役割を果たしており、入浴することで身体を、飲用することで身体の中を治すものでした。

龍馬とお龍が二十日間に渡り踏みしめた大地、駆け抜けた自然、心地よい風、木々の彩りを味わえる散策道です。あちこちで元気を貰え、心に浸みる龍馬のこぼれに出会えます。

### 龍馬資料館 「この世の外」



龍馬とお龍の「縁結びの足湯」足湯は塩浸の湯と同じ源泉を引いており、誰でも気軽に楽しむことができます。

### 龍の背坂と塩浸温泉神社



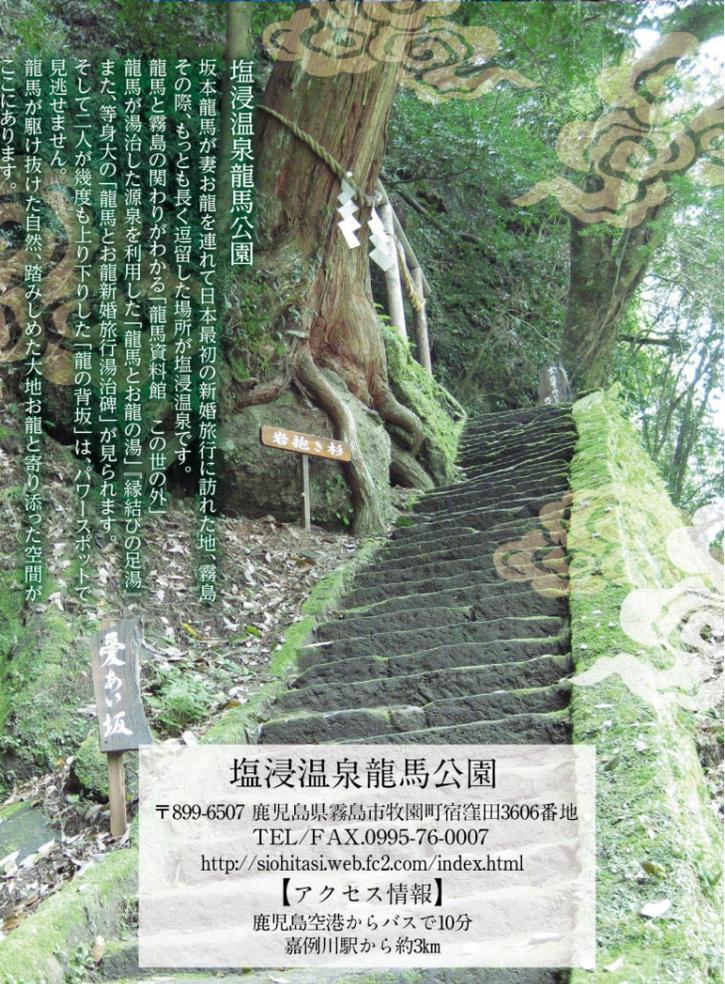
### 塩浸温泉

龍馬は、小松帯刀や西郷隆盛らの紹介でここを訪れ、寺田屋事件での刀傷を癒しました。岩に白い塩のようなものがつくことから「塩浸温泉」と呼ばれるようになりました。男湯は「龍馬の湯」、女湯は「お龍の湯」と名付けられています。それぞれ2つの湯船があり、「塩浸の湯」と「鶴の湯」の2つの源泉を楽しむことができます。泉質はともに炭酸水素塩泉で、濁りとわずかな鉄臭するのが特徴。神経痛、切り傷、皮膚病、胃腸病(美人の湯とも云われる)など多くの効能があります。

龍馬とお龍の「縁結びの足湯」

# 塩浸温泉龍馬公園

龍馬・お龍を癒した霧島の温泉と大自然



塩浸温泉龍馬公園  
〒899-6507 鹿児島県霧島市牧園町宿窪田3606番地  
TEL/FAX.0995-76-0007  
<http://shiohitasi.web.fc2.com/index.html>  
【アクセス情報】  
鹿児島空港からバスで10分  
嘉例川駅から約3km